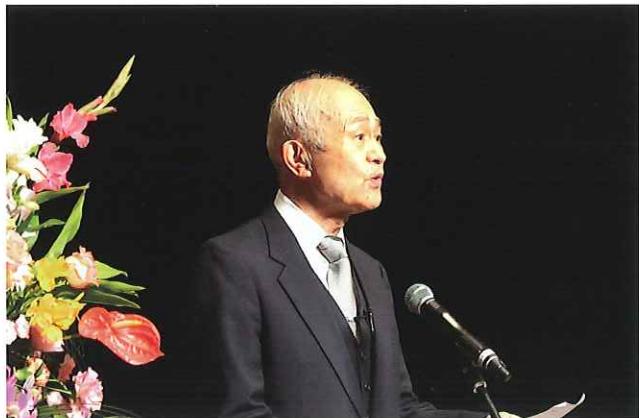


一関文化賞表彰式典挙行

芸術・文化の振興に貢献の活動を顕彰

式 辞

N P O 法人一関文化会議所 理事長 内 田 正 好



式辞を述べる内田理事長

皆様、今日は。本日は御多用中にも拘らず、令和5年度第33回「一関文化賞」の表彰式にご出席を頂き誠に有難うございます。

また、ご来賓として一関市長佐藤善仁様を始め、たくさんの方々のご臨席を賜り式典を挙行できますことを心より感謝申し上げます。

現在世界に目を向けますと、残酷な戦争が私達の胸を傷め、一日も早い停戦を祈るばかりです。国内でも残念な事件や哀しい事故が発生し不安が募ります。

そのような中で、気品溢れる美しい菊花の香りに心が癒されるこの時期に「一関文化賞」の表彰式を迎えることは大きな喜びで、平和の素晴らしさと尊さを享受できることの有難さを実感させられます。

私共一関文化会議所では、「ふるさと創生」「文化の創造」を目的として、「潤いのある文化的な魅力あるまちづくり」を目指して各種事業の展開を図っており

ます。その中で顕彰事業としての「一関文化賞」は、文化・芸術の振興並びに活力のあるまちづくりや人づくりの分野で、着実にそして顕著な活動や研究を積み上げられた方々に敬意を表し顕彰させて戴いております。

今年度の「一関文化賞」は、芸術文化部門「一関俳句協会」様、地域文化部門「大籠たら製鉄とキリスト教殉教史跡保存会」様の2団体の方々です。2団体の方々のご活躍ぶりや輝かしいご功績につきましては、この後阿部奨励委員長から詳しく述べ具体的に紹介申し上げます。

本日受賞された方々は、今後さらに保存活動や研究活動に邁進され、当一関地方の歴史と文化の創造や継承発展のために益々ご貢献されることをご期待申し上げまして私の式辞と致します。2団体の皆様方、本日は誠におめでとうございます。



只野弘三副理事長による開式

令和5年度(第33回)一関文化賞

芸術文化 一関俳句協会 地域文化 大籠たら製鉄と キリストン殉教史跡保存会

奨励委員会 委員長 阿 部 了 子

第33回となる令和5年度一関文化賞の表彰式は、11月7日、一関文化センター中ホールを会場に執り行い、当地域において文化の振興に貢献された2団体を表彰しその功績を讃えました。

式では内田理事長から受賞者に表彰状とトロフィーが手渡され、また、受賞者の皆さんからは、感謝と今後の活動の決意の言葉を頂くとともに、それぞれの活動などが発表されました。

今年度の受賞者の方々をご紹介します。



「一関俳句協会」小野寺東子会長（左）と「大籠たら製鉄とキリストン殉教史跡保存会」畠山一也会長

【受賞者の紹介】

一関文化賞「芸術文化部門」

一関俳句協会

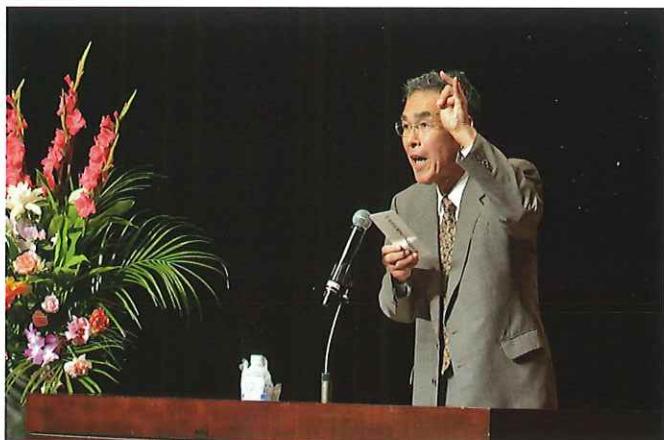
一関俳句協会は、1948（昭和23）年設立され、会員相互の研鑽はもとより俳句の普及・発展を期して75年余り活動を続けています。

設立の年から俳句大会を開催しており、2001（平成13）年に「奥の細道」一関サミットに合わせて「全国俳句大会」が行われたことを契機として、松尾芭蕉主従が一関に二泊したことにちなみ、2003（平成15）年から「みちのく『二夜庵』俳句大会」として開催。翌年の第2回に児童生徒の部を設け、旧一関市内の児童生徒から49句の応募がありました。そして、2022（令和4）年の第19回大会では、一般465句に加え児童生徒1,005句にも及び、短いリズムの中に季節や自然、心情を描く俳句の面白さを子どもたちにも理解してもらえる取り組みとなっており、何よりも日本の文化を次代に引き継ぐことを実践しています。

2012（平成24）年、中里公民館（当時）で初心者向けの講座を開催、2017（平成29）年からは、山目市民センターで同様の講座を開催しており、こうした取り組みにより俳句に親しむ新たな団体や市民の活動が生まれています。

さらに近年の取り組みでは、花いっぱい運動に参加の銅谷民区（山目地区）で、通りに飾られたハンギングバスケットに協会会員の俳句短冊を掲示して俳句をより身近に感じる機会を提供しているほか、一関文化協会主催「一関春の美術展」では、一関カメラクラブ会員の写真1枚に俳句1句を添える展示でそれぞれの視点の思いがけない違いに面白さが見いだされるなど、他との連携で互いの活動に広がりが生まれる好例となっています。

一関俳句協会のこのような活動は、日本固有の文化を次代に継承するとともに、俳句の普及のみならず市民の文化的・芸術的活動の活発化にも貢献しており、その功績は大なるものがあります。



「俳句とは何（本質）」と題した江原茂実事務局長の発表

一関文化賞「地域文化部門」

大籠たら製鉄と キリスト殉教史跡保存会

藤沢町大籠地区は、江戸時代初期における東北で最大規模のキリスト殉教の地です。この地のキリスト教は、室町時代に製鉄技術者として招聘された千松兄弟の伝道に始まるといわれ、仙台藩の重要な産物となる良質な鉄生産の増大と共に伸展しました。

本史跡保存会は、1952（昭和27）年大籠のキリスト殉教者を顕彰するカトリック大籠教会の建立を機に、「大籠地区的歴史的文化的資産を保存伝承し発信」するため地元有志により結成されました。

以来、地区全体十数か所に現存する関連史跡の看板、標柱の設置、除草等環境保全や教会の改修などに取り組んできました。しかしながら、2006（平成18）年発足当時の会長が永眠され、活動は数年間休止状態に陥りました。こういう状況にありながらも、この期間地区の方々は保存会設立の初心を埋火（うずみび）のようにして途絶えさせることなく保ち2015（平成27）年に活動を再開。

先ず最初に、史跡看板等のリニューアルのため地域出身の子供達（中学生、高校生）による説明文の英訳や中学校美術部による看板の挿絵の作成。2018（平成

30）年度は活動の継続、発展のため「史跡ボランティアガイド養成講座」を開催し、より多くの会員・地区民のガイドを育成。

さらには、史跡環境整備は勿論、ハロウィン等を通じて外国文化に触れることや郷土料理の振舞い、たら製鉄再現事業の継続開催、再現事業により生成された鉄（ケラ）によるたら風鈴の製品化など、新たな事業に取り組みながら大籠地区の歴史的文化的資産を保存伝承し発信しています。

大籠たら製鉄とキリスト殉教史跡保存会のこうした長年にわたる活動は、地域アイデンティティの形成と地域づくりの振興に大きく貢献し、その功績は大なるものがあります。



大籠の歴史や会の活動を発表する金野壯事務局長

一関ふるさと学習院 「街道」テーマに延べ145名が受講

事業委員会 委員長 畠山篤雄

令和5年度は「街道」をテーマに3回の講座、1回の現地探訪を実施。うち1回は、猿倉人形芝居 木内勇吉一座（秋田県由利本荘市）をお招きし、かつて赤荻地区に伝わった人形芝居を体感しました。従来の講座では味わえない講座となったものと思います。

人と人、土地と土地を繋ぐ道が、命を繋ぎ文化を伝える道でもあることを、改めて実感した講座であり、現地探訪であったと自負しております。

次年度も楽しみながら学べる場となるよう企画していきたく、ご要望などお寄せいただければ幸です。

ふるさと学習院

回	開催日	内 容	講 師	受講者数
1	6月22日	講座「街道紀行～路傍に残る歴史の跡～」	奥州温故の会 代表 高橋竜太郎氏	39人
2	7月13日	講座「街道がつないだ猿倉人形芝居」 ※人形芝居の実演	猿倉人形芝居 木内勇吉一座 座長 木内雄之氏	34人
3	9月27日	現地探訪「気仙・本吉へ」 見学先：陸前高田市立博物館、リアスアーク美術館 岩手県指定有形文化財 旧吉田家住宅（復旧工事中）		32人
4	10月25日	講座「街道の今昔」	一関市教育委員会文化財課 文化財調査研究員 畠山篤雄氏	40人



旧吉田家住宅（工事中）を見学

研修・視察事業

自然のエネルギーとまちの復興の歩みを感じ、学ぶ

総務委員会 委員長 安 東 正 利

「海が刻んだ景観と爪痕、そして復興へ」をテーマとして、7月4日、東日本大震災の津波から12年余りを経た陸前高田と大船渡を訪れ、海により形づくられた美しい景観と、同じ海により傷ついたまちの復興の歩みを感じ、学んできました。

55名の参加者それぞれの抱く訪問地への思いが、会話の中で交わされ、復興祈念公園では祈りが捧げられました。



碁石岬展望台



高田松原津波復興祈念公園

「説明、分かりやすかった！」東大生出前科学授業



液体窒素に入れたバラは……？

子ども委員会 委員長 佐 藤 健 三

東大CASTのメンバー8人が、8月23日に東中山、24日に磐井中と桜町中を訪れ、回転、シャボン玉、確率、液体窒素の4種類の実験を交えて科学授業を行いました。

「スケート選手の回転も無理に回っているのではなく、仕組みがあつたことを初めて知った。」、「身近なことと関連付けて科学を体験できたのが楽しかったし、興味がわいた。」等の感想があり、猛暑の中でも学生のプレゼンに興味深く聴き入っていました。

一関文化会議所 子どもスペシャル
春休み親と子のコンサート

音楽の絵本

可愛いチロリアンスタイルの衣装で民族音楽を中心にお演奏します。目も耳も楽しめるコンサート。

動物たちが奏てる多彩な音楽の世界をお楽しみ下さい。

▶令和6年3月23日(土)

開場 午後0:15 開演 午後1:00

▶一関文化センター 中ホール

▶全席指定

おとな券 1,200円(当日1,500円)

カンガルー券 1,200円(当日1,500円)

こども券(3歳~中学生) 600円(当日 700円)

▶3歳未満は保護者1名につき1名まで膝上での鑑賞

無料(カンガルー券をご購入ください)

▶チケット:文化センターまたはインターネットで

